

佐倉染井野植栽ガイドライン

協力: 千葉大学大学院園芸学研究科環境植栽学研究室

佐倉染井野緑地協定運営委員会発行

はじめに

本ガイドラインは、平成23年度の佐倉染井野緑地協定運営委員会規約改定にともない、植栽変更のご参考としてご活用していただくことを目的として千葉大学園芸学部環境植栽学研究室の協力のもと、佐倉染井野緑地協定運営委員会にて作成いたしました。

本ガイドラインには”佐倉そめい野”開発当初から植栽されている樹木に加え、千葉大学大学院園芸学研究科環境植栽学研究室において推奨する樹木を追加し、各樹木の特長や植替え時期などについて記載しております。

今までに発行されております「佐倉染井野住宅緑地調査報告書」、「樹木の特性と管理」などとあわせてご参照いただいたり、園芸業者にご相談するなどして”佐倉そめい野”の美しい街並み維持にご協力をお願いいたします。

平成23年11月

目 次

・シンボルツリー	P1～6
・生垣	P7～8
・低木(灌木)	P9～11
・地被類	P12～13
・染井野植栽概況図	P14

	シンボルツリー	特長	生育不良の原因	病虫害など	剪定	植替え時期	参考価格 (円)
1	アラカシ(常緑樹) 	自然樹形では高木になるが、年2回の剪定を続ければ緑陰、風通し、遮蔽などの機能を保ちながら良好な樹形が維持できます。	コンクリートガラや粘土の多い土壌。	樹冠が密で、風通しが悪いとうどんこ病が発生することがあります。	年2回(7月頃と11月頃)の「小透かし」剪定を行います。	3月～11月	単木、 H3m (以下同条件) 15,000 ～ 21,000
2	イタヤカエデ(落葉樹) 	自生地は高地や北海道などの寒冷地だが、暖温帯でも耐えます。	腐葉土の多い保水性の高い土壌が必要です。	ほとんどありません。	風通しのよい樹冠が特徴的であるから、剪定が必要な場合はできる限り枝の付け根ないしは分岐から切除し、他の枝は剪定しないようにします。	厳冬期を除く落葉期	25,000 ～ 40,000
3	イヌシデ(落葉樹) 	ナンキンハゼに比べて成長は遅いが、段々と大木(10m以上)になるため、限られたスペースのシンボルツリーとしては推奨しません。	コンクリートガラの多い土壌。	ほとんどありません。	剪定も可能だが、強い剪定は樹形を乱すため、軽い剪定を心掛けます。	厳冬期を除く落葉期	20,000 ～ 25,000
4	エゴノキ(落葉樹) 	比較的小さな葉で自然な樹形であれば、樹冠が密になることはない。下部の枝が大きく伸びて樹冠が横に広がる特性がある。白花の種類が自生種。ピンク色の花の品種もある。花はたくさん着き、花後に薄い緑色の実がたくさん着きます。	土壌がよければ生育はよい。	葉の一部が円くふくらむことがありますが、虫によるもので、枝を枯らすようなことにはなりません。	通行を妨げる下枝は細いうちに付け根から切れば、幹の肥大に伴って切り口が塞がります。	厳冬期を除く落葉期	15,000 ～ 23,000
5	カツラ(落葉樹) 	大木になるため、限られたスペースのシンボルツリーとしては推奨しません。	コンクリートガラの多い土壌。	幹や枝の内部を食い荒らすテッポウムシが出るがありますが、それ以外は特に見られません。	芽吹く力が強くよく枝分かれするので、小さくおさめたい場合は枝を切り詰めます。その際は必ず枝分かれしている付け根の部分で行います。中途半端な長さに枝を残すとそこから芽を吹いて葉が茂り、自然樹形が大きく崩れて見た目がおかしくなります。	厳冬期を除く落葉期	15,000 ～ 25,000

	シンボルツリー	特長	生育不良の原因	病虫害など	剪定	植替え時期	参考価格 (円)
6	 <p>カリン(落葉樹)</p>	<p>成長が遅く、樹冠も大きく広がらないため、通行の支障になりにくい。したがって、緑陰としては大きな効果は期待できません。実がなります。</p>	<p>腐葉土の多い土壌が必要です。</p>	<p>ごま色斑点病、白かび斑点病があり、ハツカイボアブラムシ、マイマイガ、モモシンクイガ、ナシヒメシンクイ、ツノロウムシという虫がつかます。</p>	<p>通行の妨げになる下部の枝は細いうちに付け根から切除します。上部の枝は樹冠内部の枝を整理するように剪定し、風通しを保つようにします。</p>	<p>厳冬期を除く落葉期</p>	<p>25,000 ～ 34,000</p>
7	 <p>クロガネモチ(常緑樹)</p>	<p>赤い実をたくさん付ける常緑樹。成長は遅いが自然状態では高木になるため、限られたスペースのシンボルツリーとしては年1回の剪定で成長を抑制する必要があります。</p>	<p>コンクリートガラや粘土の多い土壌。</p>	<p>丈夫な樹木ですが、比較的カイガラムシとすす病の被害を受けやすいです。茂りすぎて風通しが悪くなると発生しやすいので、定期的な剪定と薬剤散布で予防します。</p>	<p>年1回(7月頃か11月頃)、成長を抑制する剪定を行います。</p>	<p>3月～11月</p>	<p>19,000 ～ 35,000</p>
8	 <p>コブシ(落葉樹)</p>	<p>大木(8～10m程)になるため、限られたスペースでは剪定しなければならないが、美しい自然樹形は維持しにくい。限られたスペースのシンボルツリーとしては推奨しません。</p>	<p>コンクリートガラや粘土の多い土壌。</p>	<p>うどんこ病、すす病、白紋羽病、環紋葉枯病、斑点病など。</p>	<p>剪定は、花が咲いた後です。そのとき強く切ってしまうと、その分余計に伸びるので注意が必要です。小さくまとめた場合は、11月半ば以降に「花芽」が膨らんできますので、適当な「花芽」を残しながら切っていくとよいです。</p>	<p>厳冬期を除く落葉期</p>	<p>15,000 ～ 22,000</p>
9	 <p>ザイフリボク(落葉樹)</p>	<p>小さな白い花をたくさん付ける中木で枝が斜め上に伸びるため、スペースの限られた場所のシンボルツリーとして適している。腐葉土の多い保水性の高い土壌が必要。実がなります。</p>	<p>コンクリートガラや粘土の多い土壌。</p>	<p>枝葉が伸び始める4月中旬以降に、アブラムシが発生することがあります。実が熟すと鳥に食われるので、早めに収穫します。</p>	<p>通行の妨げになる下部の枝は細いうちに切除する。樹冠上部は特に剪定する必要はありません。</p>	<p>厳冬期を除く落葉期</p>	<p>20,000 ～ 25,000</p>
10	 <p>サルスベリ(落葉樹)</p>	<p>成長が遅く、百日紅の別名があるように、夏場に3ヶ月以上花が咲く。曲がった幹が多いため、シンボルツリーでは幹がまっすぐで上部に枝がまとまっている個体を選びます。</p>	<p>コンクリートガラや粘土の多い土壌。</p>	<p>樹冠が密で風通しが悪いと、うどんこ病やすす病が出るがありますが、枯れることは希です。</p>	<p>下部の枝は付け根から細いうちに切ります。樹冠上部の枝は強く切らずにできる限り自然にします。</p>	<p>厳冬期を除く落葉期</p>	<p>15,000 ～ 30,000</p>

	シンボルツリー	特長	生育不良の原因	病虫害など	剪定	植替え時期	参考価格 (円)
11	シャラノキ(落葉樹) 	別名: ナツツバキ。枝が斜め上に伸びる特性があり、限られたスペースのシンボルツリーとして適しているが、土壌が悪いところでは幹や枝の枯れ下がりが起こります。花は白で、形はツバキと類似。千葉大調査書において乾燥害が多数報告されています。	腐葉土の多い保水性の高い土壌が必要です。	チャドクガが発生したら、幼虫が小さい内に切除して地中に埋めるか、殺虫剤を散布。毛だけでもかぶれるので注意が必要です。	通行の妨げになる下部の枝は細いうちに切除する。樹冠上部は特に剪定する必要はありません。	厳冬期を除く落葉期	15,000 ～ 23,000
12	シラカシ(常緑樹) 	自然樹形では高木になるが、年2回の剪定を続ければ緑陰、風通し、遮蔽などの機能を保ちながら良好な樹形が維持できます。	コンクリートガラや粘土の多い土壌。	樹冠が密で、風通しが悪いとうどんこ病が発生することがあります。	年2回(7月頃と11月頃)の「小透かし」剪定を行います。	3月～11月	15,000 ～ 21,000
13	ソヨゴ(常緑樹) 	少し波打った葉が特徴的な常緑樹。成長が遅い中木で、枝葉も余り密にならないことから、成長を抑制する剪定はほとんど必要ありません。弱り易く葉が落ちやすいです。	コンクリートガラの多い土壌。	斑点をつくる斑点病や円形状の内側の厚みが薄くなる炭疽病などが発生することがあります。	ほとんど剪定の必要はありません。	3月～11月	28,000 ～ 35,000
14	トウカエデ(落葉樹) 	成長が早く、大木(10～20m)になるため、限られたスペースのシンボルツリーとしては推奨しません。	栽培は土質をあまり選ばないこと、剪定にも強いことなどから比較的容易だとされています。	アオカミキリ、ボクトウガ、マイマイガ、シラシバ病、ハンテン病、コクハン病などいろいろなものがありますので、注意を要します。	落葉直後か2月ごろに間引いたり、徒長した枝を切り戻します。込み合ってる場合は3股になっている枝の一本を切ってスッキリさせていきます。	厳冬期を除く落葉期	19,000 ～ 25,000
15	トチノキ(落葉樹) 	大木(30m程)になり、また太枝を剪定すると切り口が塞がらず節穴になって腐れ易いため、限られたスペースのシンボルツリーとしては推奨しません。	コンクリートガラの多い土壌。	根元にテッポウムシが侵入することがあります。またお盆過ぎに葉に異常が見られる場合は「トチノキヒメヨコバイ」の発生が考えられるので、スミパイン乳剤やオルトラン水和剤などを千倍程度に希釈し葉裏に散布します。	剪定は12～翌年2月に込みすぎた部分を整理する程度にします。花芽は新梢の先端につくのでそれを切らないようにします。	厳冬期を除く落葉期	20,000 ～ 30,000

	シンボルツリー	特長	生育不良の原因	病虫害など	剪定	植替え時期	参考価格 (円)
16	ナナカマド(落葉樹) 	自生地は高地や北海道などの寒冷地で、暖温帯では枯れる個体もある。礫の多い貧栄養の土壌でも生育します。	コンクリートガラの多い土壌。	病虫害は平地や暖地では比較的発生しやすいです。病気はうどんこ病、黒斑病などが、害虫はアブラムシ、ハマキムシ、ミノムシ、テッポウムシなどの発生が見られます。	通行の妨げになる下部の枝は細いうちに切除する。樹冠上部は特に剪定する必要はありません。	厳冬期を除く落葉期	17,000 ～ 25,000
17	ナンキンハゼ(落葉樹) 	成長が旺盛なため、限られたスペースのシンボルツリーとしては推奨しません。	日当たりが悪い場所に植えると紅葉が楽しめなくなることがあります。	特に気になる病虫害はあまりありません。イラガがつくこともあります。	放任して育てても自然な樹形になります。成長が早いのですが、刈り込みにも強いので、小さく管理したい場合は冬に強めに切り戻すようにする。	厳冬期を除く落葉期	15,000 ～ 36,000
18	ノムラモミジ(落葉樹) 	葉が小豆色のため目を引く種類。イタヤカエデと同様、ヤマモミジよりも枝数が少なく、風通しのよい樹冠が特徴です。	コンクリートガラや粘土の多い土壌。	カミキリムシが発生しやすいので見つけ次第捕殺します。幹に穴が開いた場合は殺虫剤を注入し殺虫します。	風通しのよい樹冠が特徴的であるから、剪定が必要な場合はできる限り枝の付け根ないしは分岐から切除し、他の枝は剪定しないようにします。	厳冬期を除く落葉期	25,000 ～ 30,000
19	ハウチワカエデ(落葉樹) 	冷温帯の山地や本州北部・北海道に自生する落葉広葉樹。カエデ類の中では葉の大きい種類。枝と枝の間隔が空いた風通し・見通しのよい樹形が特徴的です。	コンクリートガラや粘土の多い土壌。	害虫はアブラムシやテッポウムシが発生します。病気はうどんこ病や灰色カビ病が発生することがあります。品種によってかかりやすさに違いがあります。	風通しのよい樹冠が特徴的であるから、剪定が必要な場合はできる限り枝の付け根ないしは分岐から切除し、他の枝は剪定しないようにする。	厳冬期を除く落葉期	25,000 ～ 50,000
20	ハナカイドウ(落葉樹) 	小さな花がたくさん咲く花木で、成長が遅いため限られたスペースのシンボルツリーとして適している。斜めに新芽が延び通行の妨げになる可能性があります。ヒコバエも出やすいです。	腐葉土の多い土壌が必要。	キクイムシによって幹単位で枯れることがあります。	通行の妨げになる下部の枝は細いうちに付け根から切除します。上部の枝は樹冠内部の枝を整理するように剪定し、風通しを保つようにします。	厳冬期を除く落葉期	25,000 ～ 30,000

	シンボルツリー	特長	生育不良の原因	病虫害など	剪定	植替え時期	参考価格 (円)
21	 <p>ハナミズキ(落葉樹)</p>	<p>枝が横に伸びる性質があるが、枝の伸長が遅いため、限られたスペースでも植えられます。花は、白やピンクなど多様です。</p>	<p>夜間の温度が下がらない都心部では枯れやすい。</p>	<p>風通しが悪いとウドンコ病にかかりやすい。初夏から夏まで定期的に予防として薬剤をまきます。落葉した病気の葉には菌が残っているので、ゴミにして来年に持ち越さないようにします。</p>	<p>通行を妨げる下枝は細いうちに付け根から切れば、幹の肥大に伴って切り口が塞がります。</p>	<p>厳冬期を除く落葉期</p>	<p>(白) 20,000 ～ 30,000</p>
22	 <p>ヒメシャラ(落葉樹)</p>	<p>枝が斜め上に伸びる性質があり、限られたスペースのシンボルツリーとして適しています。土壌が悪いところでは幹や枝の枯れ下がりが起こります。シャラノキに比べて樹形、葉、花が小振り。腐葉土の多い保水性の高い土壌が必要です。</p>	<p>コンクリートガラや粘土の多い土壌。千葉大調査書において乾燥害が多数報告されている。</p>	<p>風通しが良く、適度に日光が当たる場所に置けば病気はほとんど出ません。まれに害虫がつくことがあります。</p>	<p>通行の妨げになる下部の枝は細いうちに切除します。樹冠上部は特に剪定する必要はありません。</p>	<p>厳冬期を除く落葉期</p>	<p>17,000 ～ 25,000</p>
23	 <p>マクミ(落葉樹)</p>	<p>株立ちになり易いため、門周辺の通行の妨げになりやすく、シンボルツリーとしては推奨しません。</p>	<p>コンクリートガラの多い土壌。</p>	<p>病虫害は少ない方ですが春～秋にかけて、アブラムシやカイガラムシなどの害虫が発生することがあります。</p>	<p>どこを切ってもよく芽を出しますのでスペースに応じて好みの大きさに仕立てることができますが、基本的には樹形が乱れた場合以外はあまりむやみに剪定せず、自然樹形で育てた方がよいです。</p>	<p>厳冬期を除く落葉期</p>	<p>25,000 ～ 38,000</p>
24	 <p>モッコク(常緑樹)</p>	<p>常緑の体表的な庭木で、赤い葉柄が特徴。成長が遅く、樹冠がやや密になりやすいため、樹冠内部の枝を切り透かすため年1回の剪定が必要。自然状態では高木になる。</p>	<p>コンクリートガラや粘土の多い土壌。</p>	<p>すす病、カイガラムシ、モッコクハマキなど。その中でもモッコクハマキがよく発生します。主な発生時期は春～秋です。また、風通しが悪いとカイガラムシが発生しその排泄物からすす病を併発することがあります。</p>	<p>年1回(7月頃か11月頃)、混んだ樹冠を透かす剪定を行います。</p>	<p>3月～11月</p>	<p>19,000 ～ 30,000</p>
25	 <p>ヤマボウシ(落葉樹)</p>	<p>日本の自生種でハナミズキと同じ仲間。ハナミズキより枝が横に伸び易いため、下枝は早めに切って、樹冠が上部で展開するようにする。</p>	<p>腐葉土の多い保水性の高い土壌が必要です。</p>	<p>目立ったものはないが、害虫ではアブラムシ、カイガラムシが付くことがあり、すす病(昆虫の排泄物に黒いカビが生えたもの)を誘発する。また、幹に穴を開けて食害するテッポウムシが付くことがあり、注意が必要です。</p>	<p>通行の妨げになる下部の枝は細いうちに切除する。樹冠上部は特に剪定する必要はありません。</p>	<p>厳冬期を除く落葉期</p>	<p>(白) 15,000 ～ 22,000</p>

	シンボルツリー	特長	生育不良の原因	病虫害など	剪定	植替え時期	参考価格 (円)
26	リョウブ(落葉樹) 	日本自生種で枝が斜め上に伸びる特性があり、樹形はシャラノキ(ナツツバキ)に似ています。白花が穂状に咲く。千葉大調査書において乾燥害が多数報告されている。	腐葉土の多い保水性の高い土壌が必要です。	幹や枝の内部を食い荒らすテッポウムシが出る場合があります。	植えつけ後、2年ほど経過した後に、ひこばえは付け根から切除する。樹冠上部は特に剪定する必要はありません。	厳冬期を除く落葉期	23,000 ～ 30,000
27	ヤマモミジ(落葉樹) 	自生地は日本海側の山地で、太平洋側に自生するイロハカエデと対照的な種。イロハカエデに比べて成長が遅いため、限られたスペースに収まりやすい。	コンクリートガラや粘土の多い土壌。	カミキリムシが発生しやすいので見つけ次第捕殺します。幹に穴が開いた場合は殺虫剤を注入し殺虫します。	樹冠内部の枝が混み合っている場合は、内部の枝を付け根から切除し、風通しを保つようにします。	厳冬期を除く落葉期	15,000 ～ 25,000
28	ヤマモモ(常緑樹) 	アラカシやシラカシに比べて成長が遅いが、枝葉が密になるため、樹冠内部の枝を切り透かすため年1回の剪定が必要。雌木は多くの実を付けるため、実の収穫や鳥の来訪を歓迎しない場合は雄木を選ぶ。自然状態では高木になります。	貧栄養な土壌でも成育できます。	コブ病と呼ばれる木の枝や幹の表面に、表面がザラザラした褐色のコブができます。原因は細菌によるものです。コブが軟化・腐敗する事はなくひどくなると生育が不良となり枯れます。	年1回(7月頃か11月頃)、混んだ樹冠を透かす剪定を行います。	3月～11月	20,000 ～ 25,000

生垣	特長	生育不良の原因	病虫害など	剪定	植替え時期	参考価格 (円)
1 イチイ 	寒冷地に自生する針葉高木。刈り込むことで整然とした整形樹形が維持できます。暖温帯では枯損することが多いです。	夜間の高温。コンクリートガラや粘土の多い土壌。	ほとんどありません。	若木のうちは上に伸ばし、下枝から整姿する。3月と7月に軽い剪定を行います。	10月～梅雨期間中	H1.4～ 1.8m 12,000 ～ 25,000
2 ウバメガシ 	暖温帯に自生する常緑高木。刈り込むことで低い生垣として維持できるが、枝の伸びがよいため刈り込み回数を増やす必要があります。	コンクリートガラや粘土の多い土壌。	うどんこ病が出やすい。	枝の伸びがよい場合は、刈り込み回数を増やします。	3月～11月	H1.2～ 1.5m 2,400 ～ 4,000
3 キンメツゲ 	成長が遅く、葉が小さく密に着生するため、緻密な生垣ができます。	貧栄養な土壌。日陰。	カイガラムシが発生します。また、カイガラムシの排泄物からすす病を併発します。カイガラムシは植物の汁を吸い生育を衰えさせ、すす病は葉の表面にべったりとカビのようなものが付いて光合成を阻害します。	刈り込み缺で刈り込むと、整形で密な生垣が維持できます。	3月～11月	H1.2～ 1.5m 2,550 ～ 4,000
4 サザンカ 	美しい花がたくさん着く常緑樹で、刈り込みにも強いです。	コンクリートガラや粘土の多い土壌。	チャドクガが発生したら、幼虫が小さい内に切除して地中に埋めるか、殺虫剤を散布します。	11月頃の開花後、大きく伸びた枝を剪定します。	3月～10月	H1.2～ 1.5m 2,300 ～ 4,000
5 サツキツツジ 	自然樹形でも樹高が低いため、低い生垣をつくる場合に適します。	コンクリートガラや粘土の多い土壌。	ツツジノゲンバウムシが発生すると、葉に小さな斑点が密生し全体に葉が白く見えるようになります。枯れることはないが、防除する場合は殺虫剤を散布します。	5月の開花後、刈り込み缺で刈り込んでもよいです。	厳冬期、猛暑期以外	H0.3m 1,000

	生垣	特長	生育不良の原因	病虫害など	剪定	植替え時期	参考価格 (円)
6	ヒイラギモクセイ 	鋭く尖ったきょ歯がある常緑広葉樹であるため、この生垣は人の侵入を物理的・心理的に抑制する効果があります。	コンクリートガラや粘土の多い土壌。	カイガラムシが発生することがあるので、見つけ次第早めに駆除します。	刈り込み鋏で刈り込むと、整形で密な生垣が維持できます。	3月～11月	H1.2～ 1.5m 2,300 ～ 4,000
7	ヒサカキ 	日陰に耐える樹種であるため、建物北側の仕切りなどに適する。ただし、染井野地区においては生育不良の固体も確認されています。	コンクリートガラや粘土の多い土壌。	カイガラムシやスズ病が見られます。	刈り込み鋏で刈り込みます。	3月～11月	H1.2～ 1.5m 2,850 ～ 4,000
8	ヒラドツツジ 	日当たりがよく花芽が刈り取られなければ、綺麗な花が一面に咲く花木。ただし、他の樹木よりも水と肥料が多く必要です。	コンクリートガラや粘土の多い土壌。	ツツジノグンバイムシが発生すると、葉に小さな斑点が密生し全体に葉が白く見えるようになる。枯れることはないが、防除する場合は殺虫剤を散布します。	開花後に刈り込み鋏で刈り込みます。	厳冬期、 猛暑期以外	H1.2～ 1.5m 5,500 ～ 7,000
9	プリベツト 	成長が旺盛な低木。	コンクリートガラや粘土の多い土壌。	蛾の幼虫などに葉を食べられる事があります。見つけたら殺虫剤で駆除します。	成長が旺盛なため、一般的な生垣よりも剪定回数を増やす必要があります。	3月～11月	H1.2～ 1.5m 2,300 ～ 4,000
10	レッドロビン 	赤い新葉が美しい常緑樹。	黒点病。コンクリートガラや粘土の多い土壌。	黒点病が発生すると、刈り込み鋏や落ち葉を介して伝搬するため、周辺の生垣が次々と罹病する。最近では黒点病に強い種類もあります。	刈り込み鋏で刈り込みます。	3月～11月	H1.2～ 1.5m 2,000 ～ 4,000

	低木(灌木)	特長	生育不良の原因	病虫害など	剪定	植替え時期	参考価格 (円)
1	アセビ 	白い筒状の花が咲く自生の常緑低木。葉は有毒で鹿も食べない。	日照不足か排水不良。また、コンクリートガラがあるとアルカリ性になり生育不良になります。	褐斑病があり、トサカグンバイという虫がつきます。	成長の遅く自然な樹形が美しいので、できる限り剪定しない方がよいです。	3月～11月	(白) H0.4～ 0.5m 1,000 ～ 1,200
2	オウバイ 	春に葉が出る前に黄色い花が咲き、枝が横に伸びる低木。	日当たりの良い場所でよく育ち、日当たりが悪いと花付きが悪くなります。	春先からアブラムシが付くことがありますが、それ以外は特に見られません。	大きく伸びた枝を剪定します。	厳冬期を除く落葉期。	ポット～ H0.3m 550 ～ 1,000
3	カンツバキ 	矮性の常緑低木。高さ50cm弱の低い地被や生垣が維持しやすい。	貧栄養な土壌。	葉裏にチャドクガが付きやすい。	樹冠上部に伸びた枝や樹冠横にはみ出る枝を切ることで整った樹形が維持できます。	厳冬期、猛暑期以外	H0.3～ 0.4m 1,100 ～ 1,500
4	クリシマツツジ 	日当たりのよい場所に植栽され、花芽が刈り取られなければ、綺麗な花が一面に咲く花木。	日照不足。また、土壌中にコンクリートガラが入っているとアルカリ性になり生育不良になります。	ツツジノグンバイムシが発生すると、葉に小さな斑点が密生し全体に葉が白く見えるようになる。枯れることはないが、防除する場合は殺虫剤を散布します。	スペースに余裕があれば自然樹形を維持したい。刈り込みは樹冠内部に光が入らないため内部の枝が枯れやすいため、剪定で樹冠を切り透かすように剪定する方がよいです。	厳冬期、猛暑期以外	H0.3～ 0.4m 800 ～ 1,000
5	クチナシ 	日陰に耐える常緑広葉の花木で、よい香りの一重の白花が咲きます。	貧栄養で乾燥しやすい土壌。	オオスカシバの幼虫が葉を食べてしまいます。アオムシのような形をしていますがおしりにツノのようなものが生えているのが特長。スミチオンなどの殺虫剤を定期的に散布します。	成長も遅いのでできる限り剪定しないようにします。	3月～11月	H0.4m 800 ～ 1,400

	低木(灌木)	特長	生育不良の原因	病虫害など	剪定	植替え時期	参考価格 (円)
6	ケルメツツジ 	日当たりがよく花芽が刈り取られなければ、綺麗な花が一面に咲く花木。	日照不足。また、土壌中にコンクリートガラが入っているとアルカリ性になり生育不良になります。	ツツジノグンバイムシが発生すると、葉に小さな斑点が密生し全体に葉が白く見えるようになる。枯れることはないが、防除する場合は殺虫剤を散布します。	スペースに余裕があれば自然樹形を維持したい。刈り込みによって樹冠輪郭部に枝葉が密生するため樹冠内部に光が入らず内部の枝が枯れやすい。剪定鋏で樹冠を切り透かすように剪定する方がよいです。	厳冬期、猛暑期以外	H0.3～ 0.4m 800 ～ 1,000
7	コクチナシ 	樹高30cm弱でクチナシに比べて葉が小さく、八重の白い花が咲く。日陰に耐えます。	貧栄養で乾燥しやすい土壌。	オオスカシバの幼虫が葉を食べてしまいます。アオムシのような形をしていますがおしりにツノのようなものが生えているのが特長。スミチオンなどの殺虫剤を定期的に散布します。	成長が遅く、ほとんど剪定する必要はありません。	3月～11月	H0.2～ 0.3m 600 ～ 900
8	サツキツツジ 	樹高50cmほど。日当たりのよい場所に植栽され、花芽が刈り取られなければ、綺麗な花が一面に咲く花木。	日照不足。また、土壌中にコンクリートガラが入っているとアルカリ性になり生育不良になります。	ツツジノグンバイムシが発生すると、葉に小さな斑点が密生し全体に葉が白く見えるようになる。枯れることはないが、防除する場合は殺虫剤を散布します。	刈り込みによって樹冠輪郭部に枝葉が密生するため樹冠内部に光が入らず内部の枝が枯れやすい。剪定鋏で樹冠を切り透かすように剪定する方がよいです。	厳冬期、猛暑期以外	H0.3～ 0.4m 800 ～ 1,000
9	シャリンバイ 	半日陰にも耐える常緑低木。臨海部に自生する種類。自生種は白花だが、ピンクの花が咲く種類もあります。	コンクリートガラや粘土の多い土壌。	風通しが悪いとカイガラムシが発生します。またその排泄物からすす病を併発するので、カイガラムシは見つけ次第駆除します。	樹冠上部や周辺部に枝が伸びて他の樹種を圧迫したり支障がある場合にはその枝を剪定鋏で切除するように剪定する。刈り込み鋏は使わない方がよいです。	3月～11月	H0.4～ 0.5m 1,000 ～ 1300
10	ジンチョウゲ 	樹高1mほどになる常緑低木で香りのよい花が咲く。灌木としては樹高が高い。	水はけの悪さ。コンクリートガラの多い土壌。	紋羽病で突然枯れてしまった場合は、土壌消毒する必要があります。	小さい内は毎年20cmくらいは伸びるので、梅雨頃に剪定し空いたところに挿し木しておくが発根するくらいに挿し木が容易です。	挿し木は容易だが、移植は難しい樹種。	H0.3～ 0.5m 1,150 ～ 1,300

	低木(灌木)	特長	生育不良の原因	病虫害など	剪定	植替え時期	参考価格 (円)
11	ハマヒサカキ 	ヒサカキが内陸部に自生するのに対して、臨海部に自生する常緑広葉樹。花が咲くとガスが漏れたような臭いがします。	コンクリートガラや粘土の多い土壌。	カイガラムシやスス病が見られます。	耐陰性があるので刈り込んでもよいが、大きく伸びた枝を剪定鋏で切除する方がよいです。	3月～11月	H0.4～ 0.5m 1,150 ～ 1,300
12	ヒイラギナンテン 	鋭く尖った鋸歯のある常緑広葉低木で、人の侵入を抑制した場所に植えると効果的。花が穂状に咲く。灌木としては樹高が高い。	水はけの悪さ。	土壌病害に犯され個体が次々に枯れてしまう場合は土壌消毒をする必要があります。	生長がゆっくりであり枝も張りませんので、ぼっさり全体を刈り込む必要はほとんどありません。形を整えるために長く伸びすぎた古い幹をつけ根から1/3くらい上の部分で切り詰めて脇から新しい枝を出させるようにします。	3月～11月	H0.4～ 1.5m 1,200 ～ 7,500
13	マメツゲ 	上部に凸に反り返った葉が特徴的なイヌツゲ。	コンクリートガラや粘土の多い土壌。	キクイムシの食害で枝単位で枯れることがあります。	刈り込みによって半球状の整った樹形が維持しやすい樹種です。	3月～11月	H0.3～ 0.4m 800 ～ 1,200
14	ミツバツツジ 	葉が出る前に花が咲く落葉性のツツジ。半日陰でも耐えるが日当たりはよい方がよい。灌木としては樹高が高い。	粘土質の土壌やコンクリートガラが混じった土壌。	ツツジノゲンバウムシが発生すると、葉に小さな斑点が密生し全体に葉が白く見えるようになる。枯れることはないが、防除する場合は殺虫剤を散布します。	隙間の空いた樹冠に花が点在して咲くように、自然な樹形を維持します。	厳冬期を除く落葉期。	H0.3～ 0.5m 1000 ～ 1,200

地被類		方向	和洋	成長度	樹高	写真
1	タマリユウ	共通	共通	普通	5cm程度	
2	ピンカミノール	共通	共通	早い	10cm程度	
3	シバザクラ	南	共通	普通	10cm程度	
4	アジュガ	北	共通	早い	10～15cm	
5	ヤブコウジ	北	和	普通	10～20cm	

地被類		方向	和洋	成長度	樹高	写真
6	キチジョウソウ	共通	共通	早い	10～20cm	
7	マツバギク	南	共通	早い	5～10cm	
8	フッキソウ	北	共通	普通	20～30cm	
9	コクチナシ	南	共通	普通	20～50cm	
10	コトネアスター	共通	共通	普通	種類により 20cm～ 3m	

地被類		方向	和洋	成長度	樹高	写真
11	サルココッカ	北	共通	遅い	30～50cm	
12	オタフクナンテン	共通	共通	普通	30～50cm	
13	フィリヤブラン	共通	共通	普通	30～50cm	
14	セイヨウイワナンテン	共通	共通	普通	1m程度	
15	オカメザサ	共通	和	早い	1～2m	

地被類		方向	和洋	成長度	樹高	写真
16	オウバイ	南	共通	普通	2～3m	
17	コウライシバ	共通	共通	普通	7cm程度	

染井野植栽概況図

「佐倉染井野住宅緑地調査報告書」より抜粋

